

2018年5月8日

## 2017年度決算説明会 質疑応答サマリ

沖電気工業株式会社

Q: メカトロシステム事業の業績について、計画に対する下ぶれ幅が大きいのですが未達となってしまう理由を詳しく説明してください。

A: ブラジル市場につきましては、前期からリサイクルATM市場が立ち上がると想定していました。しかし、実際には市場の拡大が想定していたよりもゆっくりとしたペースとなっています。その点が赤字幅を広げた要因です。グローバルには、中国市場を中心にキャッシュレス化の流れの影響もあります。インドにつきましては、一部の国営銀行の不良債権処理問題もあり、市場の拡大が減速しました。総じて当社が見込んでいたグローバル戦略は、見直しが迫られていると認識しております。

Q: メカトロシステム事業について今期営業損益をイーブンで計画されていますが、前期比で51億円損益が改善する要因は、ほぼ構造改革による固定費の削減という理解で良いのでしょうか。

A: 構造改革が主な要因であるをご理解ください。

Q: 構造改革の内容は具体的にはどのようなものでしょう。

A: ブラジルの構造改革、中国での見直し、国内リソースのシフトなどが主な要素です。詳細は5月31日の事業戦略説明会にてお知らせいたします。

Q: 前期の決算では、特別損失に事業構造改善費用として25億円計上されています。先ほどメカトロシステム事業の構造改革で40億円という話がありましたが、この関係はどうなっていますか。また減損リスクについてはいかがですか。

A: 前期の特別損失25億円についてはプリンター事業の構造改革によるもので、海外販社の支店化などの構造改革費用であり、ブラジルではございません。今期のメカトロシステム事業の構造改革は、ブラジルを中心に約40億円を計画に織り込んでいます。減損については過去に行っておりますが、追加的に発生するものではありません。

Q: 前期のメカトロシステム事業の営業利益の減少は、売上の減少によるということで特別なものはないという理解でよろしいでしょうか

A: その通りです。また、ブラジルビジネスでは継続的に赤字が発生しておりまして、前期

も約 40 億円の赤字でした。全体の損失の大きな要因となっております。

**Q** : EMS 事業については、沖電線の連結効果が含まれていると思います。フレキシブル基板がかなり好調だと想像しますが、詳しく教えていただけますでしょうか

**A** : 沖電線の連結効果で今期見込んでいる売上高影響は 130 億円、営業利益は 10 億円程度です。加えて、その他セグメントから電源の製造子会社、検査関連の子会社を EMS 事業とのシナジーがあるということで、同セグメントにリステートしております。沖電線とのシナジー効果ということでは、ファクトリーオートメーションの分野に沖電線の優良なお客様がいらっしゃいますので、EMS 事業との一貫営業で売上高の増加を図っていきたいと考えております。ちなみに、前期決算に織り込まれている沖電線の連結効果は第 4 四半期分だけですので、売上高 30 億円、営業利益 1~2 億円ほどです。

**Q** : EMS 事業が好調ですが、材料の入手について問題はありますか。

**A** : 全般的に好調とはいえ、材料に関して品薄感はあります。調達の確保を図りながら、売上を確実に確保できるように双方をにらみながら事業を行っております。

**Q** : IoT の共創ビジネスということで、具体的に開示できるような例があればご紹介ください。

**A** : ソラスト様と医療事務の効率化に関するビジネスを始めており、丸紅様とロジスティックの効率化を図るビジネスがございます。その他建設関係では、光ファイバーを使い構築物の歪みを発見するような案件や、光ファイバーで温度を検出し自動車の塗装の温度を管理するというような案件など、いくつかトライアルも始まってございます。

**Q** : 海外の ATM 事業について、今期の地域ごとの収益イメージはどう見えていますか。

**A** : 中国は、訴訟関連費用も含めて水面上に出るような形、ブラジルについてはとにかくプラスマイナスゼロに近づけ、グローバルでは残念ながらやはり価格競争が厳しいので 10 億円台の赤字も戦略的に確保しなければいけないかと考えております。

**Q** : メカトロシステム事業の構造改革は、今期の早い時期に進めるということによろしいですか。

**A** : ブラジルも複数の事業体がございますが、早めの実施すればその分固定費が改善するのは当たり前ですが、若干ながら収益のあるビジネスもございますので、バランスを見ながら今後の販売戦略を考慮して行っていきたいと考えております。いたずらに時間をかけるつもりはなく、スピード感を持って行う考えです。

**Q** : 今期の設備投資 120 億円について、特に EMS 事業については 40 億円と大幅増になっ

ています。こういった所に重点投資されますか。

A：プリント基板関連の設備の他、沖電線のケーブル関係の設備については老朽化も進んでおりますので、これからの生産拡大に向けた設備の更新を考えております。

Q：今期計画で為替影響を15億円見込んでいる点についてご説明ください。

A：ユーロとドルに関して為替予約を行っており、その影響を織り込んでいます。

Q：今期計画での固定費増減の35億円ですが、沖電線を連結した影響やメカトロシステム事業の構造改革の影響もあると思います。内訳について教えてください。

A：沖電線の連結影響で26億円の固定費増加、本社費用で10億円の増加、R&Dで20億円ほど増加しておりますので、これらを合計すると56億円ほどの費用増となりますが、それを35億円に圧縮する部分に構造改革効果が内数として含まれているとご理解ください。

Q：メカトロシステム事業の売上計画について、先ほど減少要因として価格競争の激化を織り込んでいるということでしたが、それ以外に営業店システムの減少やブラジルビジネスの中身を見直す中で減収要因があるということがあれば、差し支えない範囲で教えてください。

A：価格競争の激化による売上ダウンの他、国内については現金処理機の場合が一部終了したために、減少することを織り込んでおります。

(注) 本資料における予想、見通し、計画等は、現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。なお、内容につきましては理解しやすいように部分的に加筆・修正をしております。